大学院特別講義のご案内

◆日時：2025年5月19日（月）17：00～18：30

◆場所：大講義室

◆講師：東京科学大学教授　相田潤先生

◆演題：因果関係はあるのか!?口腔と認知症の関係

◆要旨：口腔の健康と認知症の関係が報告されています。しかし因果関係への批判も存在します。この国際的な議論について、先進的な手法を用いた研究や見逃されているメカニズムの点から説明をします。2025年６月のIADRでのシンポジウムの内容を一部先取りしてお届けします！

問い合わせ先：有床義歯補綴学・高齢者歯科学講座（内線2954）

※「口の難病」セミナーも兼ねます

大学院特別講義のご案内

◆日時：2025年6月16日（月）17：00～18：30

◆場所：大講義室

◆講師：東京歯科大学老年歯科補綴学講座　主任教授　上田貴之

◆演題：高齢期の口腔健康管理のエビデンス
—口腔衛生管理と口腔機能管理—

◆要旨：口腔健康管理は、口腔衛生管理と口腔機能管理から成り立つ。高齢期における口腔健康管理には体系だったガイドラインは存在しないため、個々の歯科医師や歯科衛生士の経験則に頼っている部分が大きい。そのような現状のもと、当講座では口腔健康管理の方法について検討を行い、効率的かつ効果的な方法を選択するためのエビデンス作りに取り組んできた。本セミナーでは、それらのエビデンスを紹介し、口腔健康管理の手法について理解を深めていただく機会としたい。

問い合わせ先：有床義歯補綴学・高齢者歯科学講座（内線2954）

※「口の難病」セミナーも兼ねます

大学院特別セミナーのご案内

◆日時：2025年11月11日（火）17：30～19：00

◆場所：大講義室

◆講師：新潟大学教授　堀一浩先生

◆演題：摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科補綴的アプローチ

◆要旨：超高齢社会を迎え，訪問歯科診療などを通じて要介護高齢者を診療する機会が増えている．要介護高齢者診療における歯科医師に期待される役割として，口腔ケアや有床義歯の調整・新製を含む歯科治療とともに，口腔期嚥下の改善や舌接触補助床（PAP）をはじめとする様々な装置を用いた補綴的なアプローチを行うことが挙げられる．本講演では，摂食嚥下機能をスクリーニングする評価方法について説明するとともに，要介護高齢者における補綴装置製作の際の注意点と，PAPなどの様々な補綴装置の概要について説明する．

問い合わせ先：有床義歯補綴学・高齢者歯科学講座（内線2954）

※「口の難病」セミナーも兼ねます

大学院特別講義のご案内

- 日時：　2026（令和８）年1月30日（金）　１８：００～19：３０
- 場所：　弓倉記念ホール
- 講師：　日本大学歯学部薬理学講座　　教授　小林　真之 先生
- 演題：　島皮質における口腔顔面痛の情報処理メカニズム

  (Mechanisms of Orofacial Nociceptive Information Processing in the Insular Cortex)
- 要旨：　島皮質は、三叉神経脊髄路核尾側亜核（Sp5C）、腕傍核（PBN）、扁桃体、視床腹内側核などを介して口腔顔面領域の疼痛情報を受容・統合する高次脳領野である。一方で、島皮質からこれらの神経核へ向かう下行性投射線維の存在も報告されている。我々は、島皮質からSp5Cおよび外側PBNへ投射する線維を、光遺伝学的および化学遺伝学的手法を用いて特異的に活性化すると、顔面痛が増強されることを明らかにした。さらに、島皮質に発現する主要な抑制性ニューロンであるparvalbumin陽性細胞を特異的に活性化すると、侵害刺激に対する逃避行動が抑制されることを見出した。これらの結果は、島皮質の興奮性出力ニューロンが脳幹への下行性投射を介して顔面痛を制御していることを示唆している。本セミナーでは、二光子顕微鏡を用いたCa^{2+}イメージングによる最新の知見も交えながら、島皮質が口腔顔面領域の疼痛制御に果たす役割について議論したい。

Challenge to Intractable Oral Diseases　＊“口の難病セミナー”を兼ねます。

問い合わせ先：口腔生理学講座　加藤（2882）